



### 復興プロジェクト2019 森のワインパーティー

第30回高原の夕べ森のワインパーティー(株岩手くずまきワイン主催)は2月1日、モウモウ館で町内外から約200人が参加し、三陸防災復興プロジェクト2019の関連イベントとして開催されました。

鈴木重男町長は「今日は三陸復興を願ってのワインの会です。防災意識を高めながらのパーティーにしましょう」とあいさつ。参加者たちは20種類を超えるワインのほか、テーブルに並ぶ三陸産の魚介類をふんだんに使用した料理を楽しみながら会話を弾ませていました。



会場を盛り上げた旧山形村議会議員の嵯峨力雄さん(円内)による乾杯

### 葛巻海外派遣者報告会 異文化の理解深める

葛巻高校(上柿剛校長、生徒133人)の海外派遣者報告会は2月4日、同校1、2年生を対象に行われ国際社会への理解を深めました。

今年度はドイツ研修7人のほかオーストラリア・台湾1人、中国雲南省2人が海外研修を体験しており、自身の経験から学んだことや日本との違いについて発表しました。

生徒らは現地で撮影した写真やクイズを盛り込みながら分かりやすく説明。「視野が広がった」「文化や習慣の違いを理解できた」など多様性を認める大切さを伝えていました。



中国雲南省での研修の様子について説明する本宮明純さんと遠藤将さん



園庭で雪のにおいを嗅ぎ想像を膨らませる江刈保育園の子どもたち

### ことばあそびに挑戦 季節詠む力作そろそろ

1月30日、江刈保育園(中崎廣子園長嘱託員、園児21人)の3歳から5歳の園児らが齋藤誠子さん(69歳、下町)を講師に迎え、ことばあそびに挑戦しました。

始めに園庭で雪のにおいを嗅いだり、雪遊びをしながら季節を体感。見たことや感じたことを声にし、齋藤さんに教えてもらいながら五・七・五の17文字にまとめました。子どもたちの素直な気持ちを詠んだ力作の数々は、本年8月4日に開催予定の「第1回盛岡国際俳句大会」に投句されます。

### くずまきICT教室開催 大学生から可能性学ぶ

くずまきICT教室(関西大学ICT48主催)は2月2日と3日の2日間、総合センターで町内の小学生らが参加し行われました。

子どもたちは学生らの指導を受けながらドローンを操作したり写真を編集して動画や画像を作る技術を学ぶなどパソコンを使いさまざまな体験をしました。大川原舞桜利ちゃん(江刈小4年)は「自分で撮った動画や写真を切り抜いたり組み合わせることができて楽しいです」と熱心に取り組んでいました。※ICTとはinformation and communications technology(コミュニケーション技術)の略



関西大学の学生の指導を受けながらパソコンで思い思いの動画や画像を作る子どもたち

### 冬の星空観察会 夜空に満天の星

町観光協会(遠藤裕樹会長)では2月10日、森のこだま館でくずまき冬の星空観察会を開催し、親子連れら約20人が参加しました。

冬の開催は今回が初めて。シリウス、プロキオン、ベテルギウスの3つの一等星で形作られる冬の冬の大三角を学んだ後、望遠鏡を使って冬の星座を代表するオリオン座などを観察。参加者たちは極寒の夜空に広がる満天の星空に歓声を上げながら夢中で観察していました。近藤琉生くん(6歳)は「オレンジの星が見えて、温かそうだなと思った」と目を輝かせていました。



星空の説明を受ける参加者たちと観察した冬の星座を代表するオリオン座



自転車を使ったまちづくりについて講演する高橋幸博さん(円内)と真剣に耳を傾ける参加者たち

### 世界を見据えた事業展開 成功事例からヒント探る

くずまき観光地域づくり協議会(会長、觸澤義美副町長)の観光PR検討部会では2月1日、役場会議室で地域活性化・インバウンド成功事例の講演会とワークショップを開催し、(株)ARCH・ヒーロー北海道代表取締役の高橋幸博さんを講師に自転車を使ったまちづくりの事例について学びました。

参加者たちは世界を見据えた事業展開に感心。自分たちの取り組みのヒントを得ようと真剣に耳を傾けていました。その後、観光の見どころを話し合いサイクリングコースを検討しました。